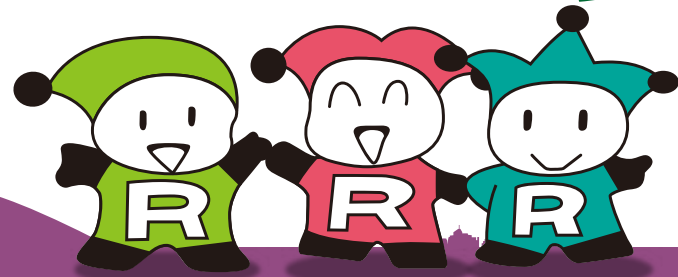


スリーアール

3Rのススメ。



特集

～地域との「共生」と環境活動～

【天橋立ワイン】

丹後でワインづくりに挑戦する 天橋立ワイナリーが行う資源循環の取り組み



近年、「ご当地グルメ」といった言葉をよく耳にします。特徴的な商品に地域名をつけてブランド化する、地域ブランド商品は、世界中から注目を集めています。京都は古都のイメージが強いですが、北部の丹後地域は、大陸との交易で栄えた歴史と海の幸があり、「もうひとつの京都」として、その魅力が再認識され始めています。今回は、丹後産ぶどうにこだわり、ワインづくりを行う天橋立ワイナリーを訪れ、天橋立ワイン(株)専務取締役の藤原邦彦さんに、同社が行う資源循環の取り組みについてお話を伺いました。

地でワインづくりを選んだのか理由を伺うと、「ワインはコミュニケーションツールのひとつ。グローバル化した現代では、逆に地域の魅力を発信していくべき。ワインは、ボルドー産やブルゴーニュ産と言うように、地域性がある商品。地域の魅力を伝えるために丹後産にこだわっています」と藤原専務はおっしゃいます。ワインづくりで地元活性化に繋がりたいという熱意が伝わってきました。



店内は木材や漆喰を使用した趣のある内装。

丹後でワインづくり

ワイナリーは、天橋立が囲む内海に面した場所にあり、ぶどう栽培から醸造、販売までを一体で行っています。約3haの敷地で栽培されるぶどうはおよそ20品種。丹後産のぶどうにこだわり、国産ワインを生産しています。ぶどう栽培は全国的ですが、海に面した環境での栽培は珍しいとのこと。なぜあえて丹後の

天橋立ワイナリー外観。ワイン販売店、レストラン、醸造施設が併設。



牡蠣殻の再利用等、環境に関する取り組み

十数年前から阿蘇海で牡蠣が大量発生し、景観悪化や悪臭が問題となっています。堆積した牡蠣殻の除去を行っているものの、処分に費用が掛かるという問題もあります。そのやっかいものの牡蠣殻を土壌改良剤として受け入れようという、山崎社長の発想で、地元行政と調整して受け入れルートを確立。数年前



牡蠣殻を土壌改良剤として利用。排水性向上、栄養補給の効果がある。実が無いので臭いもありません。

から試験的に受け入れ、以来土壌改良材として活用しています。現在では、年間50t近くを利用しています。また、同社では食品残さの再資源化にも意欲

次ページへ続く

contents

特集

丹後でワインづくりに挑戦する
天橋立ワイナリーが行う資源循環の取り組み
・天橋立ワイン株式会社

照明用電源等のエキスパート
・サンエー電機株式会社

◆京都市からのお知らせ



天橋立ワイナリー
オリジナルマールクッキー。

的に取り組まれています。例えば、ぶどう搾り粕(マール)の再利用。チョコやクッキーに混ぜ込み、商品化しています。マールの飼料化についても検討されている様子で、府内で家畜のエサとして再利用することでマールの地域循環の仕組みを構築し、廃棄物の削減に取り組みたいとのことでした。



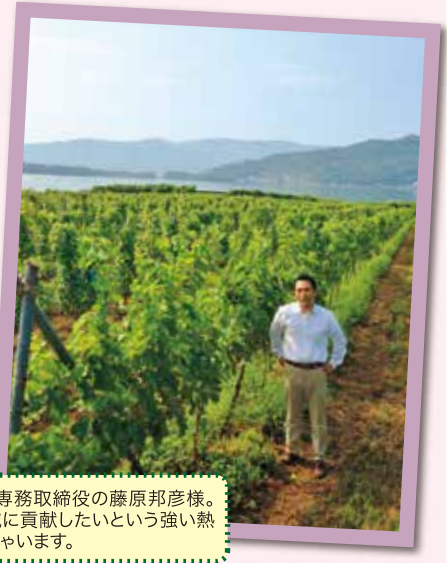
地域との「共生」と環境活動

今回の取材で印象に残ったのは、地元の方への配慮や行政との関係を重視される姿勢でした。ぶどう畑開拓の際、既存の農家への影響を考え、農家の方の雇用を増やす等、地元の方の理解を



地域ボランティアによる牡蠣殻の清掃活動。同社も参加し、天橋立の景観保護に協力しています。

得ながら事業を進めることに務めている様子が伝わってきました。牡蠣殻の問題でも、行政と調整しつつ、会社としてできることに取り組むことで、地域に貢献し、成果を出されています。牡蠣殻の例では、同社の環境活動が地域の廃棄物削減につながり、ワインづくりに必要となる肥料費が削減されるという、地元と企業がwin-winの関係になっていることが魅力的です。環境活動を進めることは地元との相互理解を深め、結果、地域との「共生」が可能となり、真に付加価値のある「地元ブランド」商品の製造が可能となるのではないかと感じました。



今回お話を伺った専務取締役の藤原邦彦様。ワインづくりで地域に貢献したいという強い熱意を持っていらっしゃいます。

天橋立ワイン株式会社

代表取締役社長:山崎 浩孝
所在地:〒629-2234 京都府宮津市国分123
TEL:0772-27-2222

特集

～あらゆる不要物を有価物に～ 照明用電源等のエキスパート 【サンエー電機】



トンネル内LED照明。
(出典: NEXCO中日本ホームページ)

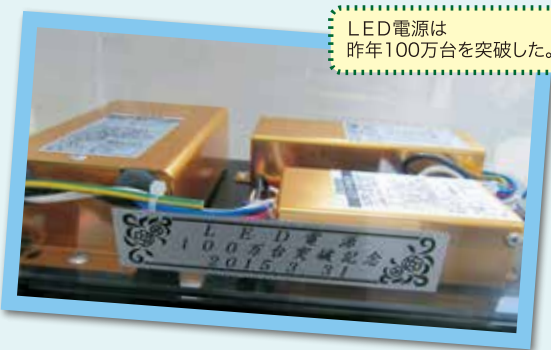
今ではもうすっかり私たちの生活の中に溶け込んできたLED照明ですが、そんなLED照明に高効率で高品質の電源を供給するために欠かせないのが定電流電源装置です。サンエー電機株式会社では、LED照明の安定した調光に欠かせない定電流電源装置を始め、医療用電源、ランプ点灯用電源、高圧電源など様々な分野の電源の開発・製造を行っています。今回は京都市南区のサンエー電機の本社を訪ね、同社の廃棄物対策などについてお話を伺いました。

★ 細かな分別が有価物化につながる

サンエー電機で開発・製造している電源装置は、プリント基板にコンデンサー、半導体、抵抗、トランスなどの部品を装着し、LED照明用電源では防水、防塵等のために樹脂を充填し密閉化し、点



サンエー電機(株)本社



LED電源は
昨年100万台を突破した。

検の上出荷されます。その過程の中で排出されるのが、銅線や鉄、アルミなどの金属くず、廃プラや充填用樹脂などの不要となった廃棄物です。

製造工程の中で排出される銅線の端材。



これらの廃棄物、以前は一括してパッカー車に運び込み処理してもらっていたと言います。

それを分別して有価物に変えようという取り組みに着手したのが6年前。銅線や鉄やアルミなどの金属くずを分別して有料化する、銅線や電線が巻かれたプラスチック製のポビンは業者に販売しそのまま再使用してもらい、LED電源用の充填樹脂についても廃棄される残さをRDF(固形燃料)用の原料としてもらう、紙類についても段ボールや新聞、チラシ、シュレッダーに分類し有価で買い取ってもらうなど、あらゆる分野で分別し有価物に変える取り組みを行ってきました。これにより、不要物の殆どが有価物として売却することに転換でき、現在、廃棄物として処分しているのは弁当ガラなどの廃プラの一部、空き缶などに限られるようになったとのこと。

再度銅線巻きとして利用されるポビン。



お話ししていただいた奥係長。

★よく聞き、よく調べる

何故このように廃棄物を有価物に変えることができたのか。総務部の奥係長は、とにかく関係する業者の皆さんによく聞くことが大事だと言います。処理業者さんや同業者に

話を聞いたり、処理現場を見学したり、様々な場面の中で様々な情報を積極的に収集することにより、有価物化が実現できたと言います。処理業者等との緊密なパートナーシップの賜物ともいえるでしょう。「とにかく業者によく相談すること、現地を見て確認することが大切です」と奥係長は強調します。現在では、この取り組みもすっかり会社に根付き、従業員にも廃棄物を有価物にするという取り組みや習慣が定着、今では従業員の方から

廃棄するものを持って来て、「これ、売れる?」と聞きに来るようになったとのこと。



工場内は整理・整頓が行き届き、清潔に保たれている。木製の机は電気を通さない為の工夫。木製のため再利用もし易く廃棄物にならない利点も。

★従業員が創意工夫

情報収集と共に大事なのが、社内での取り組みです。廃棄物の分別は従業員の協力なしには実施することはできません。不要になったものを廃棄するときに、従業員一人ひとりがきちんと分別しなければ、せっかくの分別・有価物化も絵に描いた餅になってしまいます。その為に大事なのが、上に立つ人間の率先実行。「上の人間が率先することにより若手も自主的に実施するようになる」と牧野社長。従業員が自ら考え創意工夫しながら実施する好循環が生まれてきたと言います。また「3S委員会」を設置し、「3S」すなわち整理・整頓・清掃活動にも力を入れているとのこと。4年前から3S活動に乗り出し、各課から参加した3S委員会で工場内の清掃活動を社員全員で行い、倉庫の物品について整理・整頓の取り組みを進めてきました。そういった作業を従業員が自主的に実施する中で、自分たちで作業環境も改善する積極性が生まれてきたと言います。そういった積極性が、廃棄物を分別し有価物に変える取り組みにも、大きく貢献したのでしょう。

牧野稔代表取締役にもお話しを伺った。



サンエー電機株式会社

代表取締役：牧野 稔
所在地：〒601-8205 京都市南区久世殿城町295
TEL:075-933-2411

京都市からのお知らせ

第16回環境フォーラムきょうと

京都市では、市民の皆様へ産業廃棄物の処理・リサイクルについて知っていただくために、(公社)京都府産業廃棄物協会と共に啓発イベント「環境フォーラムきょうと」を毎年開催しています。本年度も次のとおり開催しますので是非お立ち寄りください。

入場無料

●日時:平成28年3月5日(土)午前10時～午後3時

●場所:イオンモールKYOTO 4F「Kotoホール」

※さんばいキャラクターズ劇など、多彩な企画を御用意しています。

問合せ先

京都市環境政策局循環型社会推進部廃棄物指導課
〒604-0924 京都市中京区河原町通二条下の一之船入町384
ヤサカ河原町ビル7F
TEL:075-366-1394 FAX:075-221-6550
E-mail: hic@city.kyoto.lg.jp

「産廃チェック制度」認定証授与式

産業廃棄物の適正処理の確保等に向けた意識の向上を図るため、各事業場が行う自己チェックを支援する「産廃処理・3R等優良事業場認定制度(通称産廃チェック制度)」を実施しています。

一定の基準を満たした事業場については、その結果を市が審査し、「優良事業場」として認定・公表しており、「第16回環境フォーラムきょうと」では、平成27年度の優良事業場の認定証授与式を行います。



▲昨年度の様子

一般社団法人京都府産業廃棄物3R支援センターのご紹介

本センターは、産業廃棄物の3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進するため、産業界、処理業界、大学等研究機関、各種団体、行政機関に賛同いただき、京都府の産業廃棄物税を財源として平成23年に設立されました(構成団体はページ下に記載)。

産業廃棄物を減らしリサイクルする活動は、コスト削減だけでなく作業工程の改善等にも繋がります。

本センターの支援事業が広く皆様に活用され、企業経営の合理化や新たな循環産業の創出の推進、更には資源が循環する持続可能社会の構築に貢献できることを願っています。

センターが行う3Rの取り組み支援事業

ゼロエミッションアドバイザー派遣事業(無料)

企業の廃棄物対策や環境マネジメントに専門知識と経験を持つアドバイザーが、御社の廃棄物対策をアドバイスします。問合せは当センター又はNPO法人KES環境機構へ。

産業廃棄物3Rの技術開発・施設整備補助事業

産業廃棄物の減量・リサイクルを目指す技術開発や施設整備に対し補助金を交付します(補助率1/4~2/3。助成額1000万円以内)。問合せは当センターへ。

産業廃棄物3R情報提供事業(無料)

廃棄物処理業者やリサイクル業者の情報を提供。また、京都府・市の行政データを含めた中間処理業者一覧を作成・配布しています。問合せは当センター又は(公社)京都府産業廃棄物協会へ。

3R人材育成支援事業

セミナーや講習会の開催、企業研修会へ講師派遣を行い、人材育成活動を支援しています。「3Rのポイント」「事例で学産業廃棄物3R」等の啓発冊子も用意。問合せは当センターへ。

事務局より

「優良産廃処理業者認定制度」をご存じでしょうか。通常の許可基準より厳しい基準で優良な処理業者を選定する、廃棄物処理法で定められた法定の認定制度です。認定基準は①5年以上の実績と遵法性、②事業の透明性、③ISO14001など環境配慮の取組、④電子 manifests の導入、⑤財務体質の健全性の五つ。この基準をクリアした業者だけが優良産廃処理業者に認定され、許可証に優良のマークが付けられます。現在、全国で924社、京都府・京都市の認定業者は処分業者12社、集運業者93社(いずれも昨年末現在)となっています。より安心で優れた業者に産廃処理を委託することは、会社のCSR(企業の社会的責任)を向上させるための第一歩。御社でも是非この優良認定制度の活用をご検討下さい。(公財)産業廃棄物処理事業振興財団のサイト「産廃情報ネット」に認定業者の一覧が記載されています。

一般社団法人京都府産業廃棄物3R支援センター ニュースレター 「3Rのススム。」第13号



2016年2月発行(年4回発行)
発行:一般社団法人京都府産業廃棄物3R支援センター
住所:〒615-0801 京都市右京区西京極豆田町2番地
京都工業会館内2階
TEL:075-322-0530 FAX:075-322-0529
E-mail: info@kyoto-3rbiz.org
URL: http://www.kyoto-3rbiz.org/

【構成団体】 京都商工会議所・京都府中小企業団体中央会・一般社団法人長田野工業センター・公益社団法人京都工業会
公益社団法人京都府産業廃棄物協会・特定非営利活動法人KES環境機構・京都府・京都市

